

兵庫県

障害者生涯学習アンケート

集計結果のご紹介

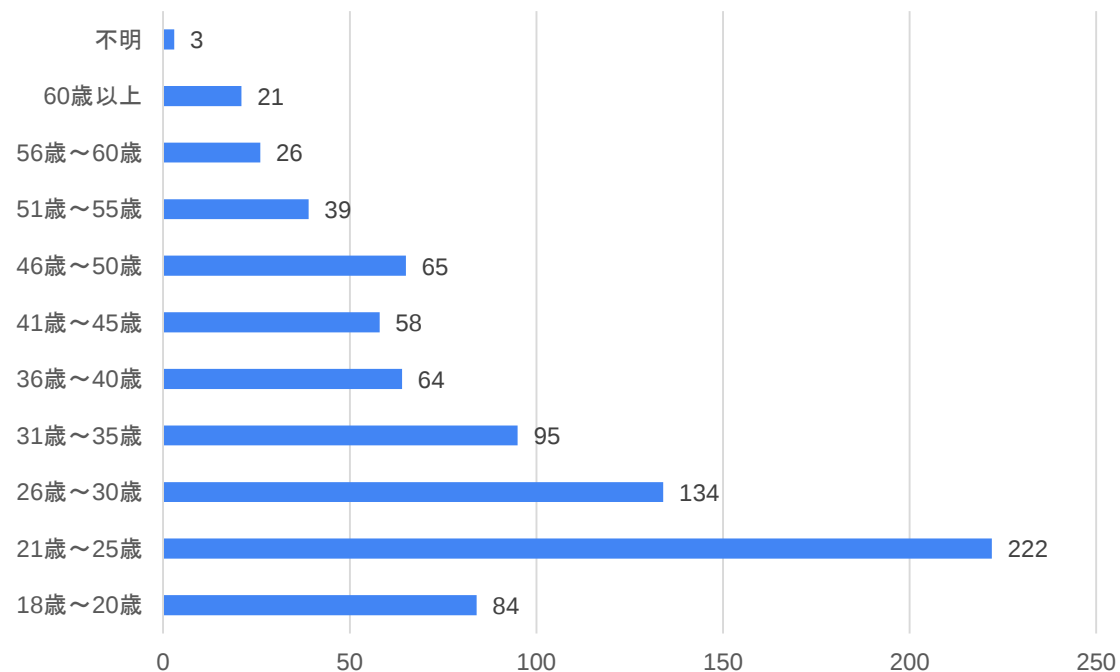
2021年10月

調査の概要

- 療育手帳所持者を主たる対象の調査とした。
- 2021年9月にGoogle Formsを用いて実施。
- 質問票は、ワーキンググループで原案を作成し、コンソーシアムで決定した。
- 回答の呼びかけは、コンソーシアムメンバーからの依頼、新聞での呼びかけによって行なった。
- 兵庫県外からの回答もあったが、無効回答とした。
- 有効回答数は811件であった。
- 本人だけで回答したものは350件、支援を受けながら本人が回答したものは142件、保護者や支援者が回答したものは312件であった（7件は無回答）。

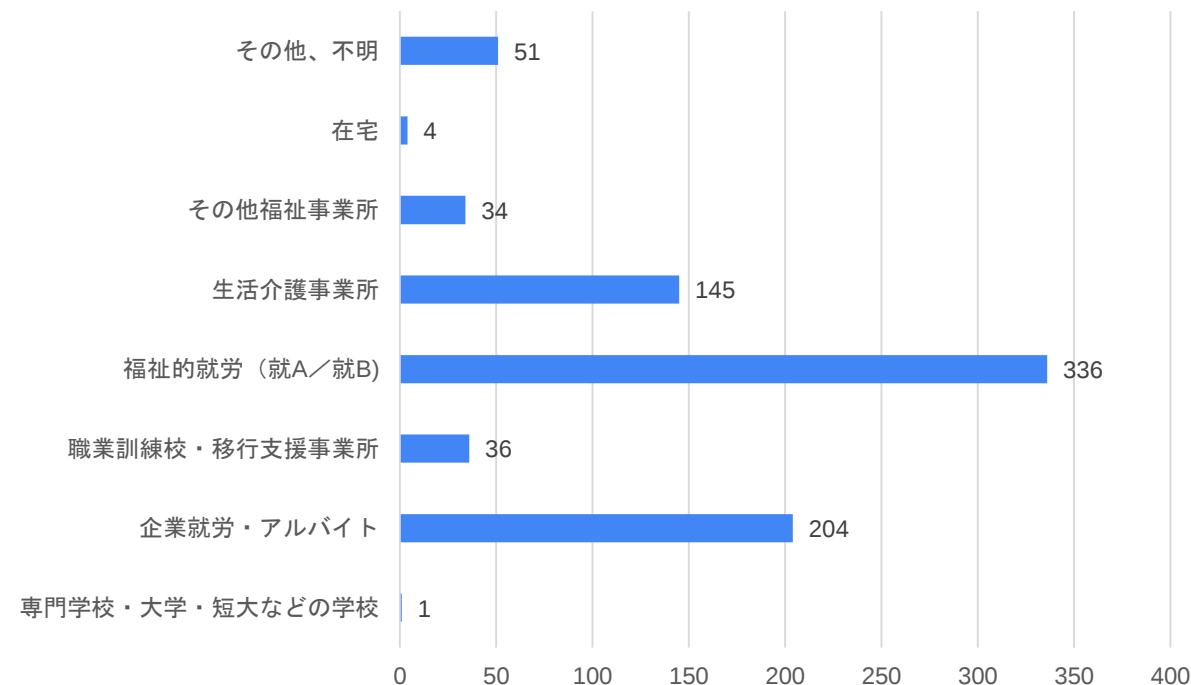
回答者の属性 1

回答者の年齢層



若年層に偏ったサンプルであった。

回答者の職場等

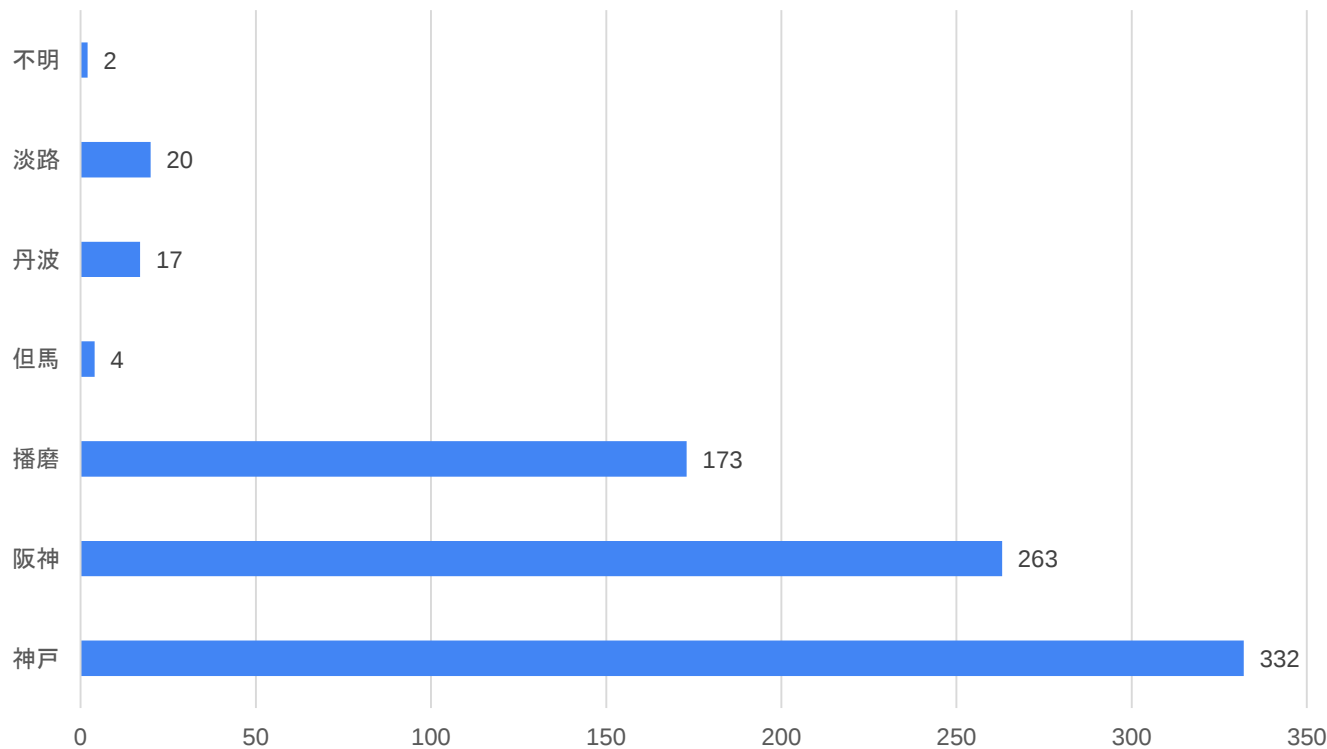


就労支援施設通所者、生活介護事業所が半分以上を占め、企業就労・アルバイトは1/4を占めた。

回答者の属性2

有効回答数 811

回答者の居住地域



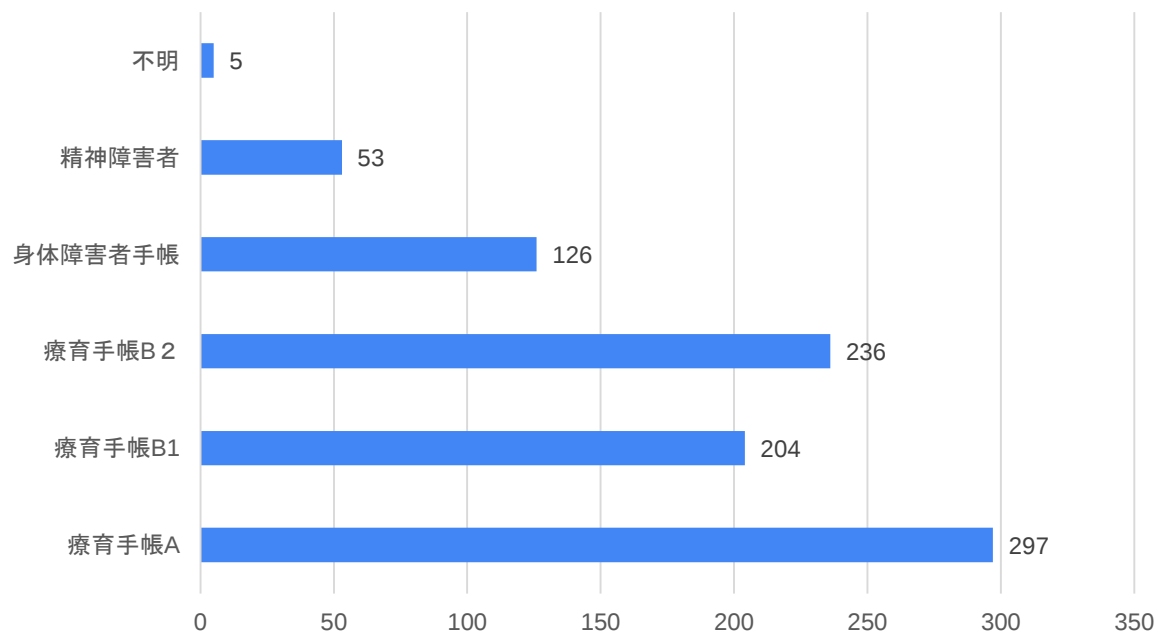
神戸	332	洲本	10
三田	75	南あわじ	7
加古川	54	芦屋	6
明石	49	三木	6
西宮	48	丹波篠山	6
川辺郡	44	神埼郡	4
川西	38	赤穂	4
姫路	25	淡路	3
尼崎	20	美方郡	3
宝塚	19	加西	3
伊丹	13	加東	2
加古郡	13	小野	1
丹波	11	豊岡	1
高砂	11	不明	2

神戸・阪神で3/4を占める、都市部に偏ったサンプルであった。

回答者の属性3

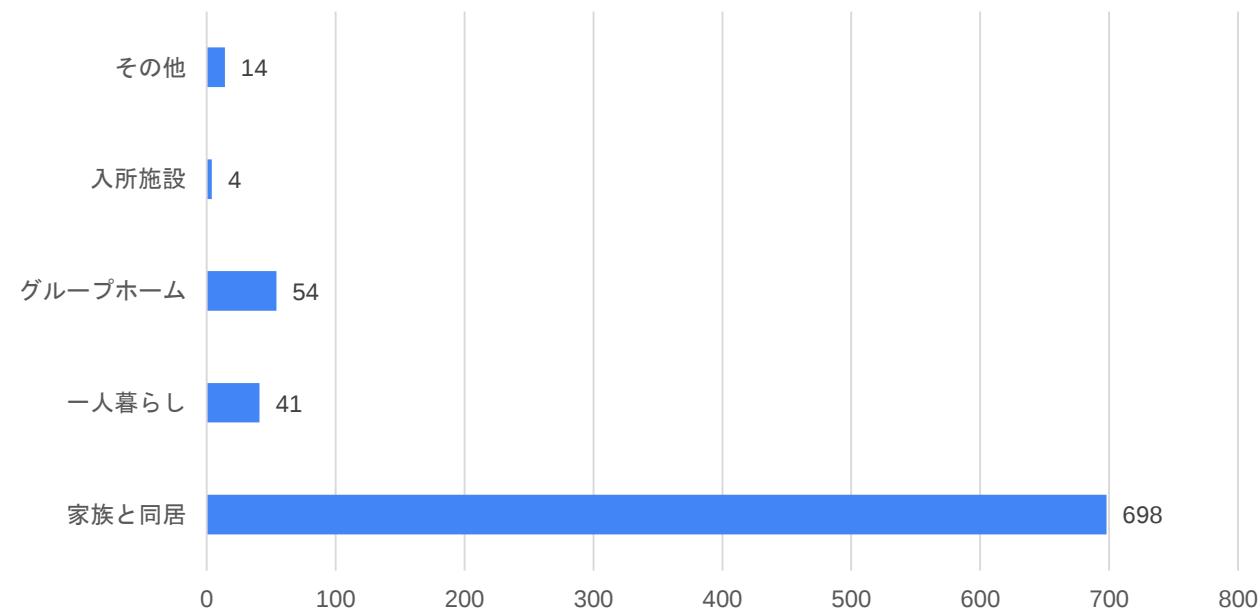
有効回答数 811

回答者の障害



重複障害者が110名おり、また視覚障害者12名、聴覚障害者16名であった。

回答者の生活状況

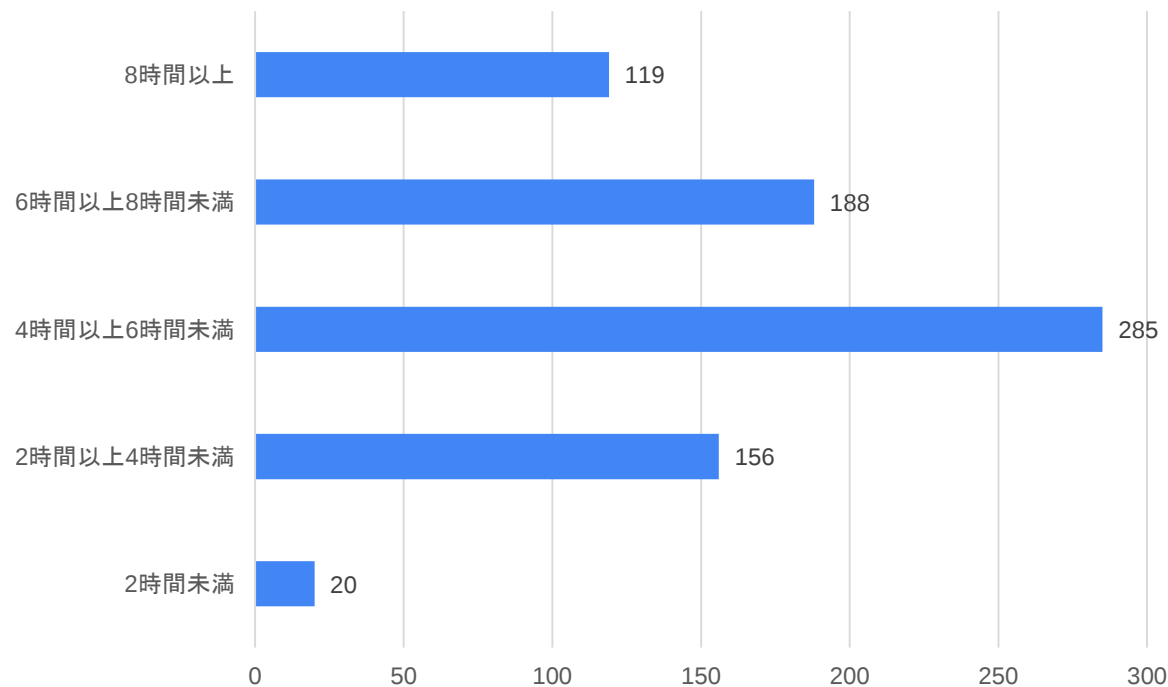


家族と同居している回答者が圧倒的多数であった。

自由時間1

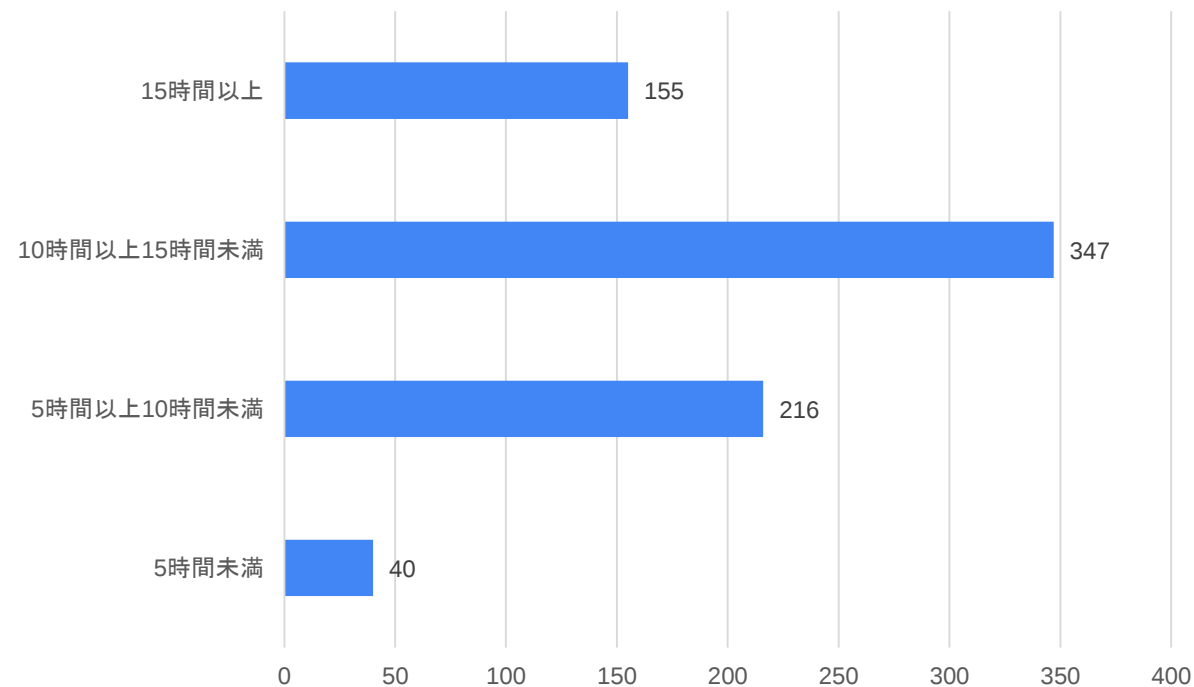
有効回答数 811

平日の自由時間



平日は、自由時間が4～6時間である人が多かった。
また、それ以上の人も多くいた。

休日の自由時間

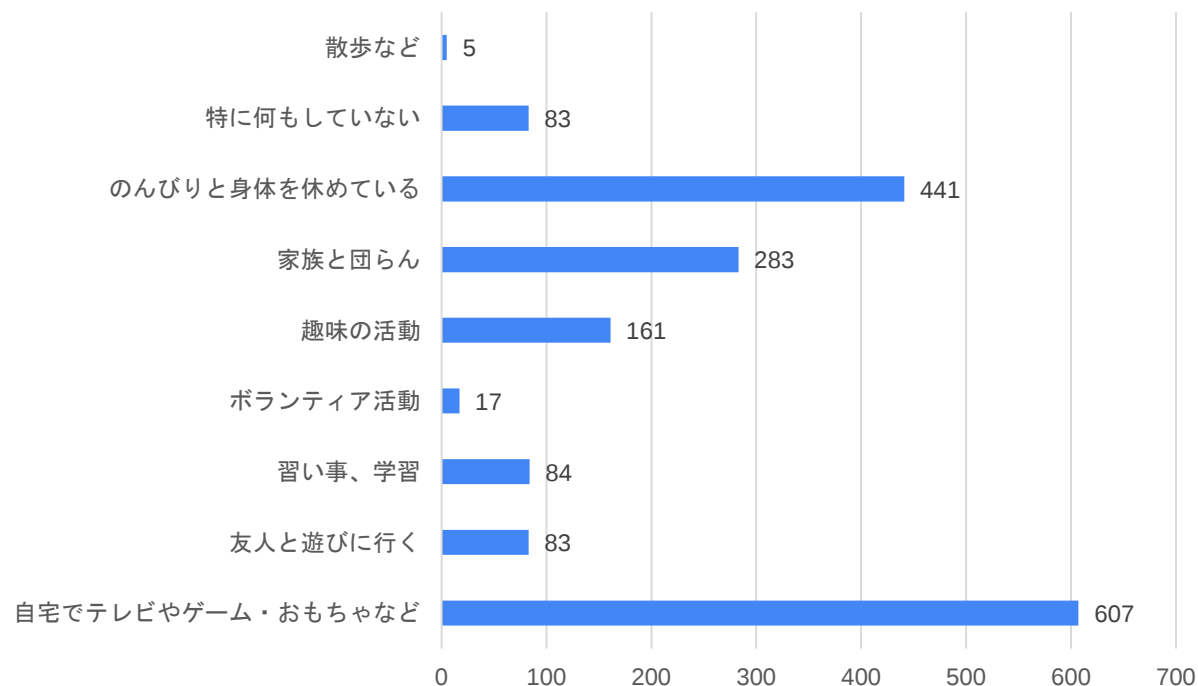


休日は、自由時間が10～15時間である人が多かった。
また、15時間以上の人も多くいた。

自由時間2

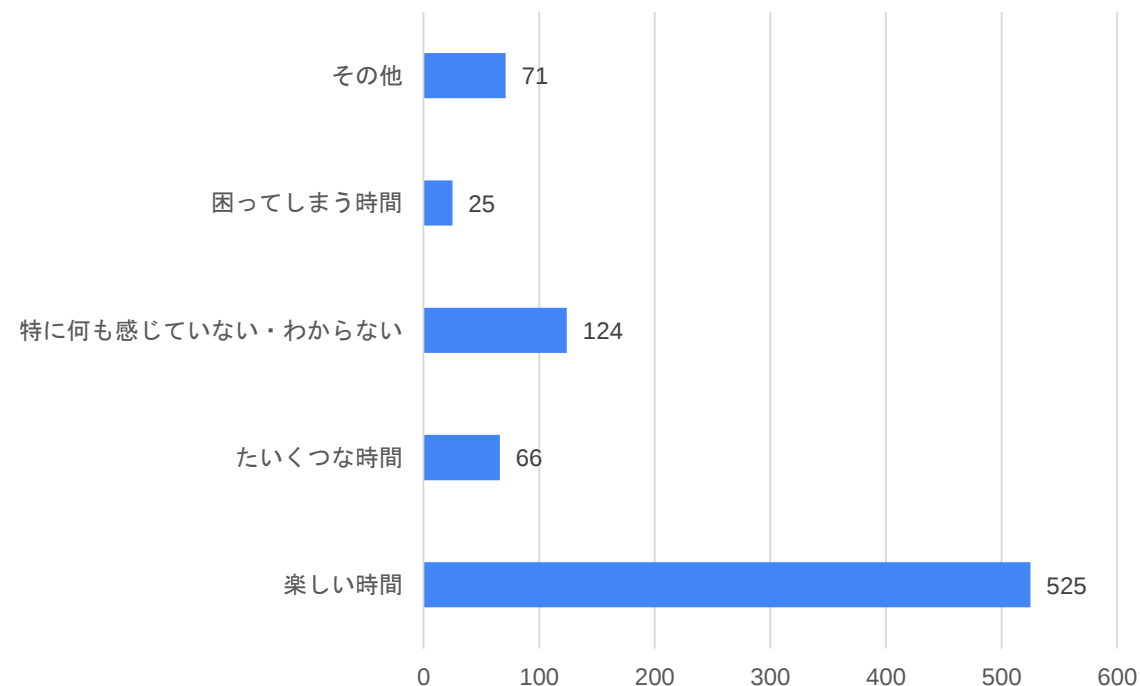
有効回答数 811

自由時間の過ごし方



テレビやゲーム、おもちゃで自由時間を過ごす人が多かった。他方、趣味の活動は18%にすぎず、学習やボランティア活動と答えた回答者も少なかった。

自由時間に対する感情

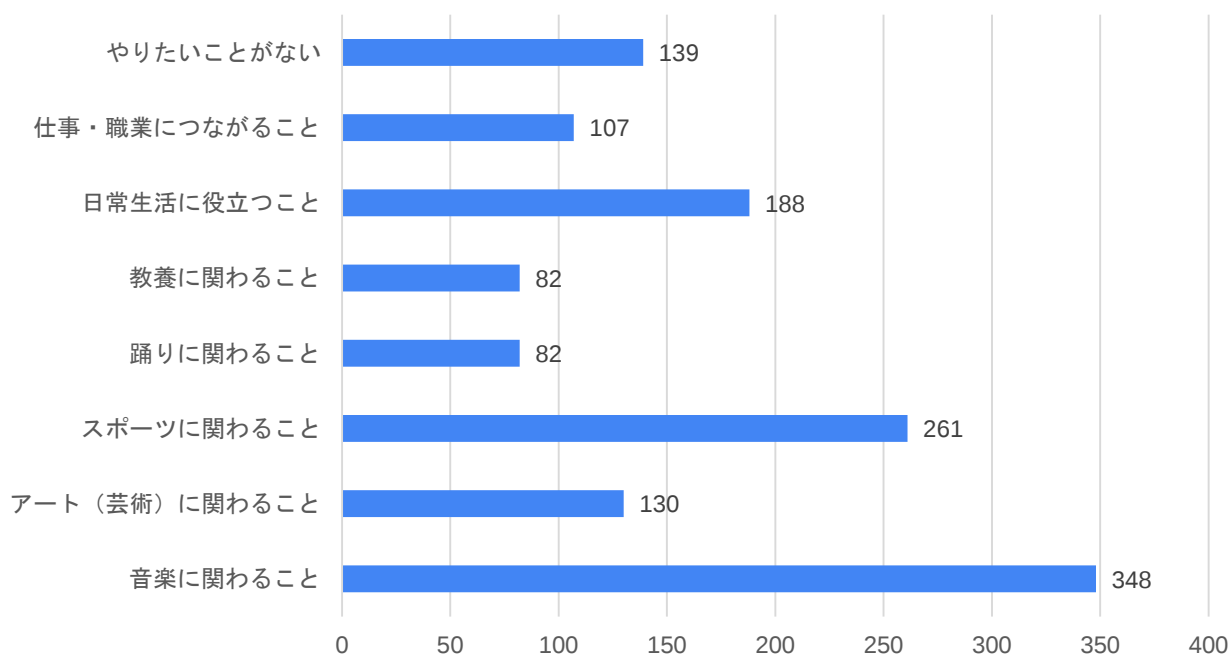


自由時間に対して楽しいイメージをもっている回答者が多数だった。

自由時間にやってみたいこと

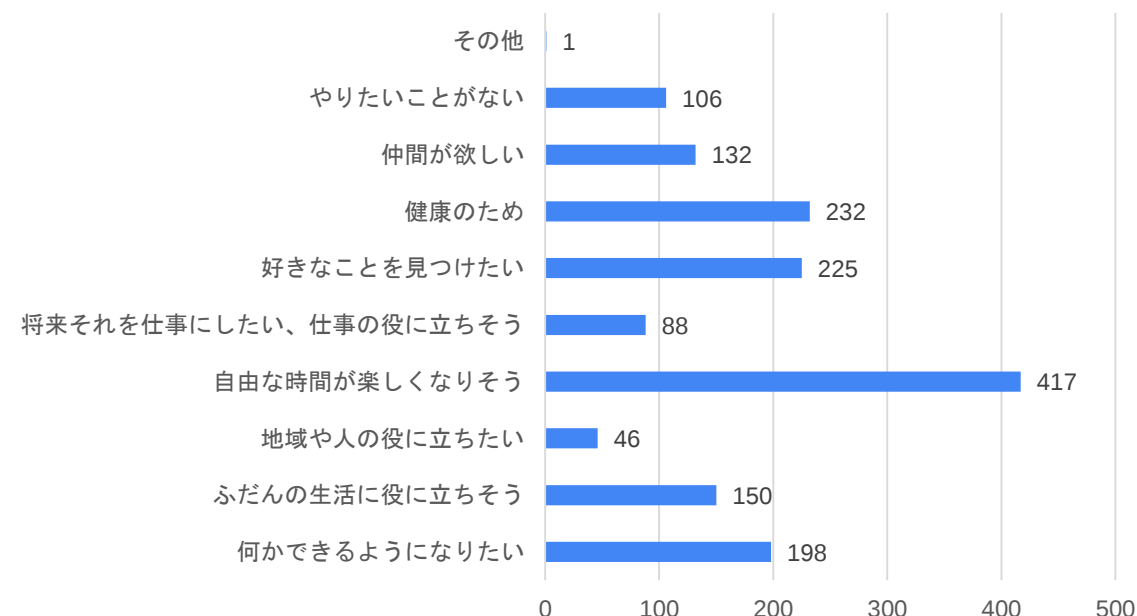
有効回答数 811

自由時間を使った活動のうち、やってみたいと思うもの、もっとやりたいと思うもの



音楽やスポーツをやりたい回答者が多かった。
他方、やりたいことがないという回答者も17%に達した。

自由時間を使った活動をやってみたい理由

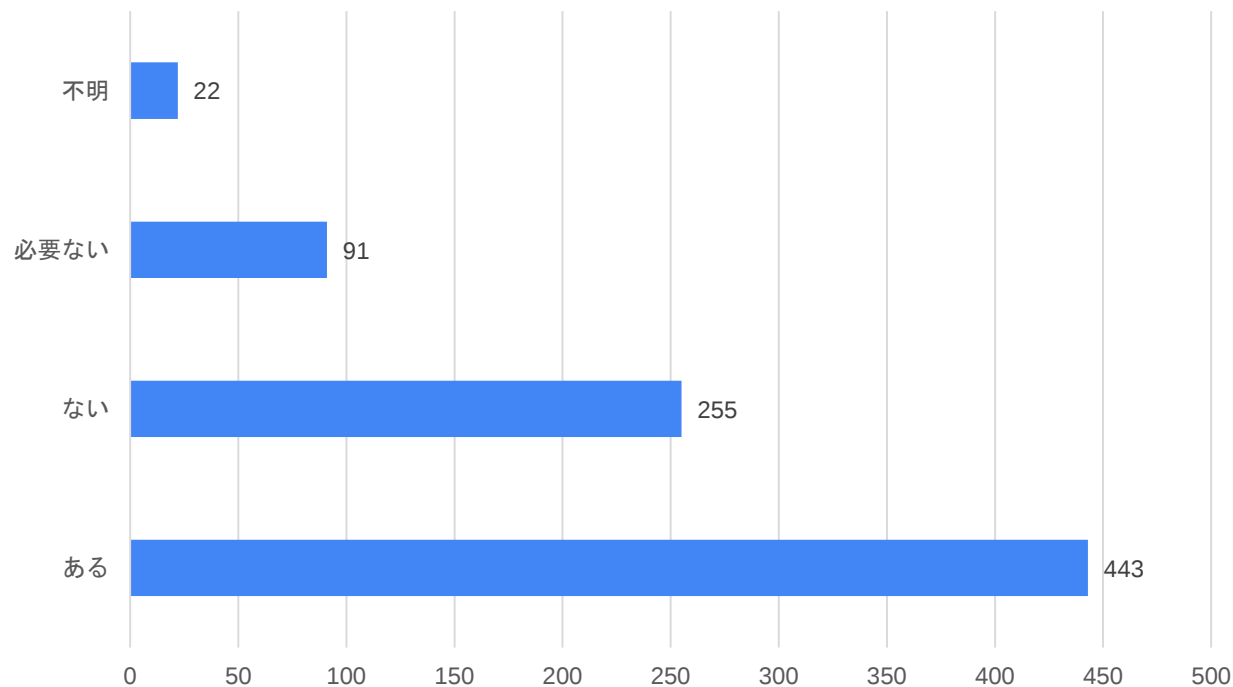


自由時間を好きなことをして楽しく過ごしたい
という回答が多かった。

情報

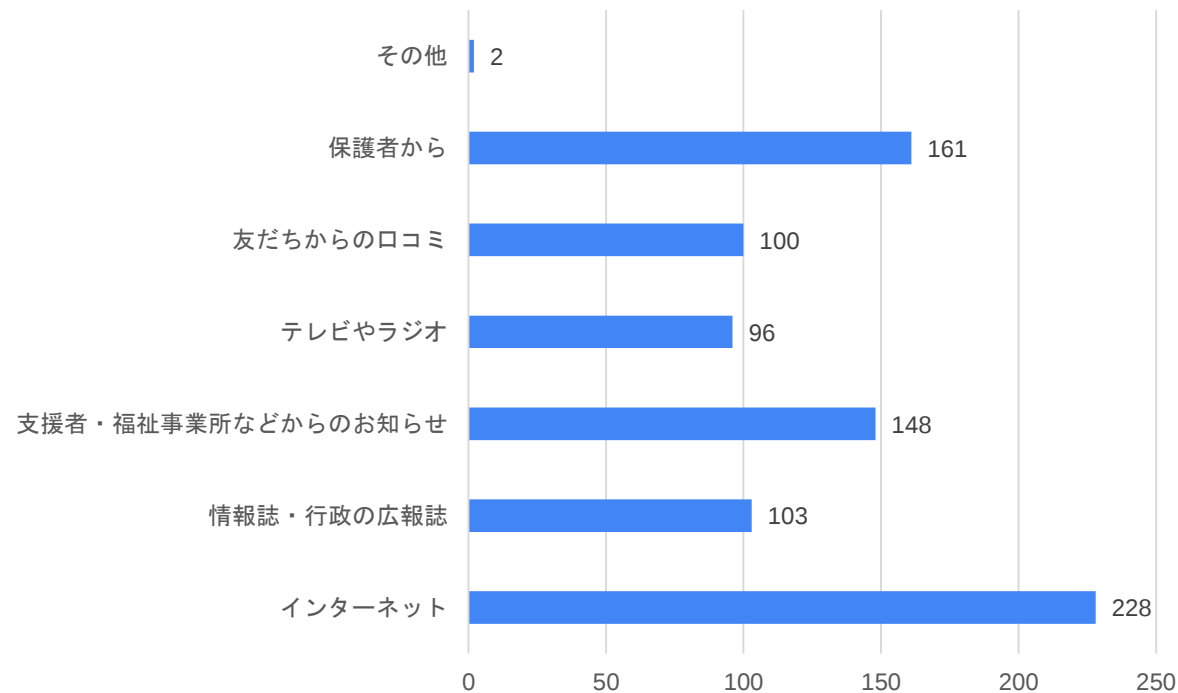
有効回答数 811

自由時間を使った活動の情報



自由時間を使った活動についての情報があるとした回答者が半数以上いた。

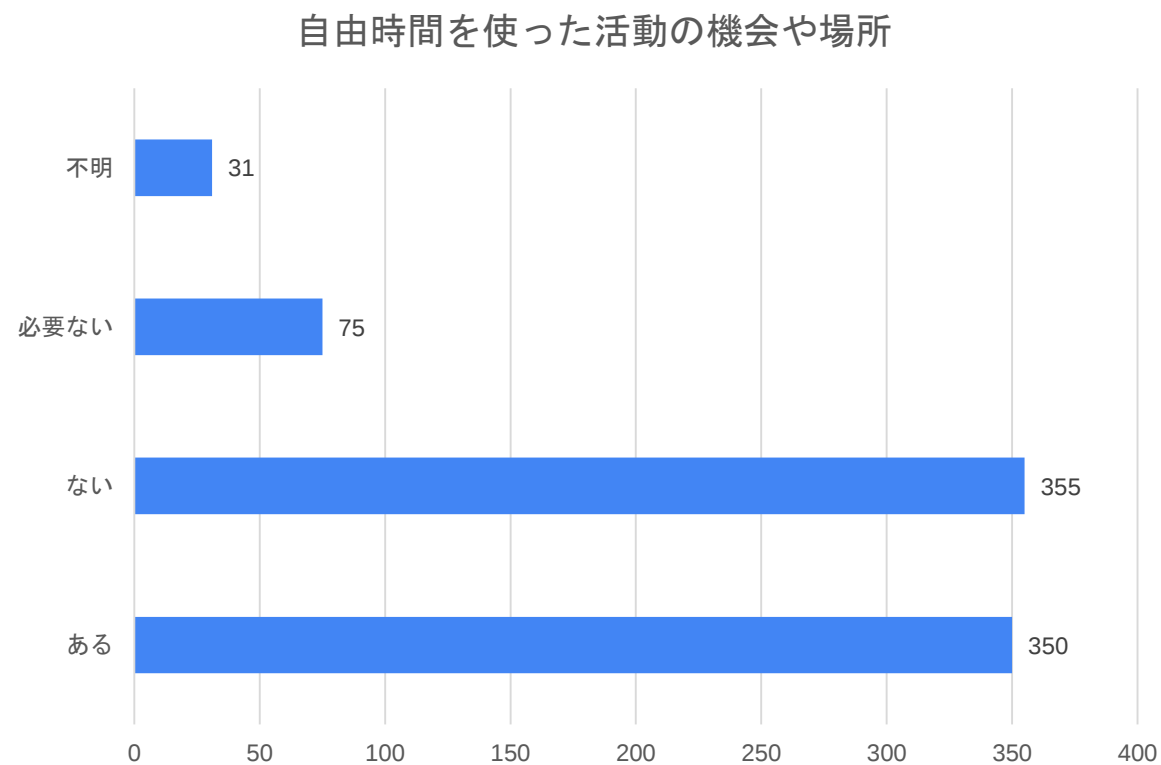
自由時間を使った活動の情報入手



情報の入手経路は、インターネットと口コミが有力という結果だった。

場所

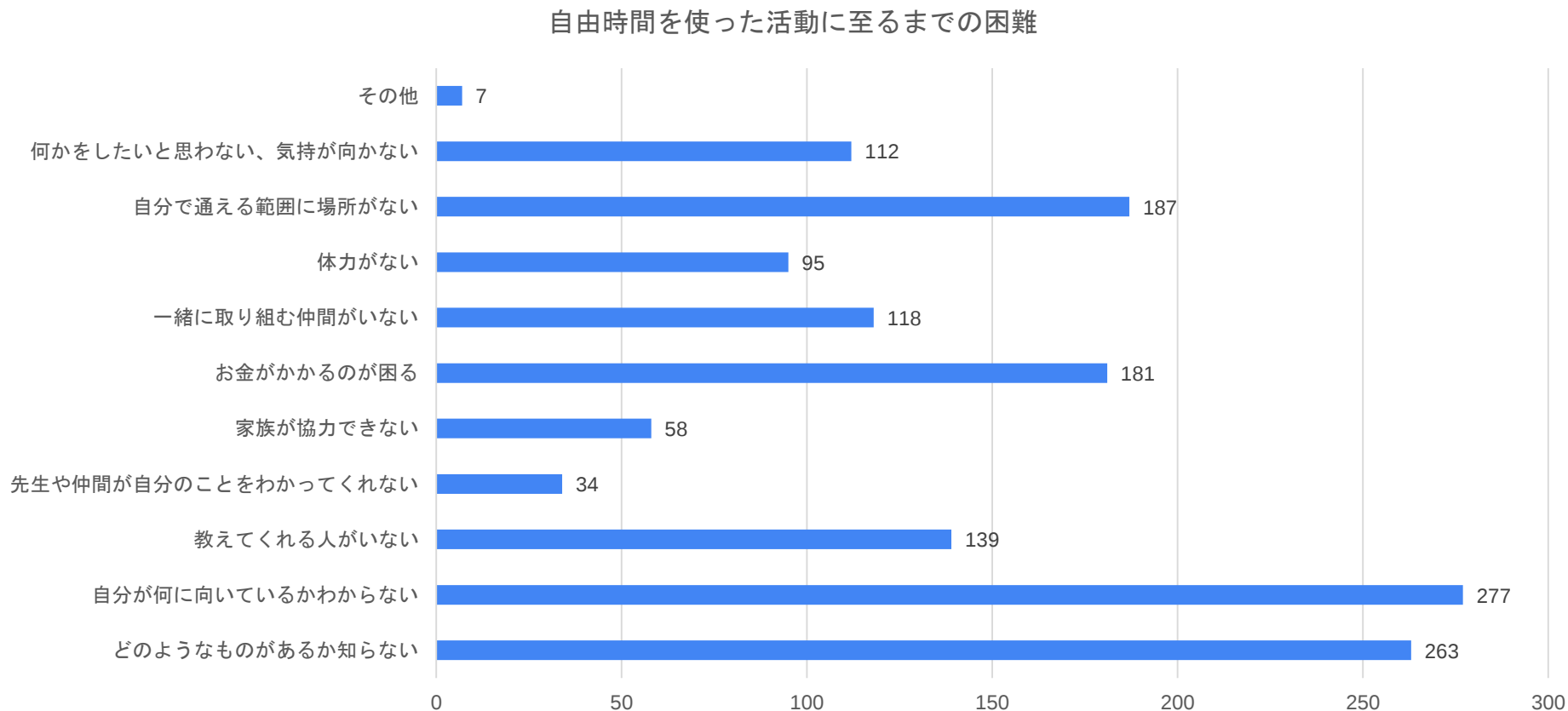
有効回答数 811



自由時間を使った活動の機会や場所については、「ある」と答えた人と「ない」と答えた人が拮抗していた。

活動に至るまでの困難

有効回答数 811

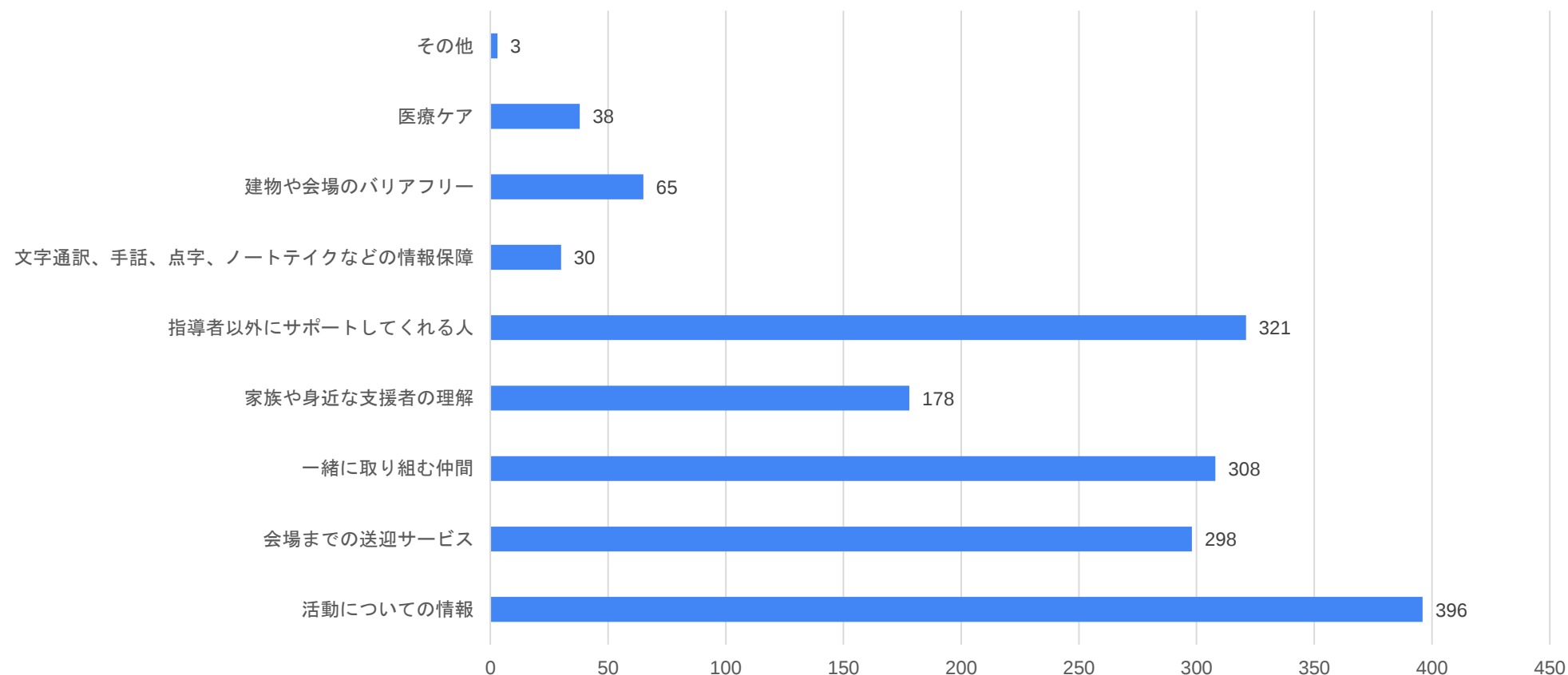


自分が何に向いているかわからない、どのような活動があるかわからない、といったことが困難になっている回答者が多かった。また、地理的条件や経済的条件、支援者や仲間の問題など、困難の中味は多岐にわたった。

必要なサービス

有効回答数 811

自由時間を使った活動をするために必要なサービス

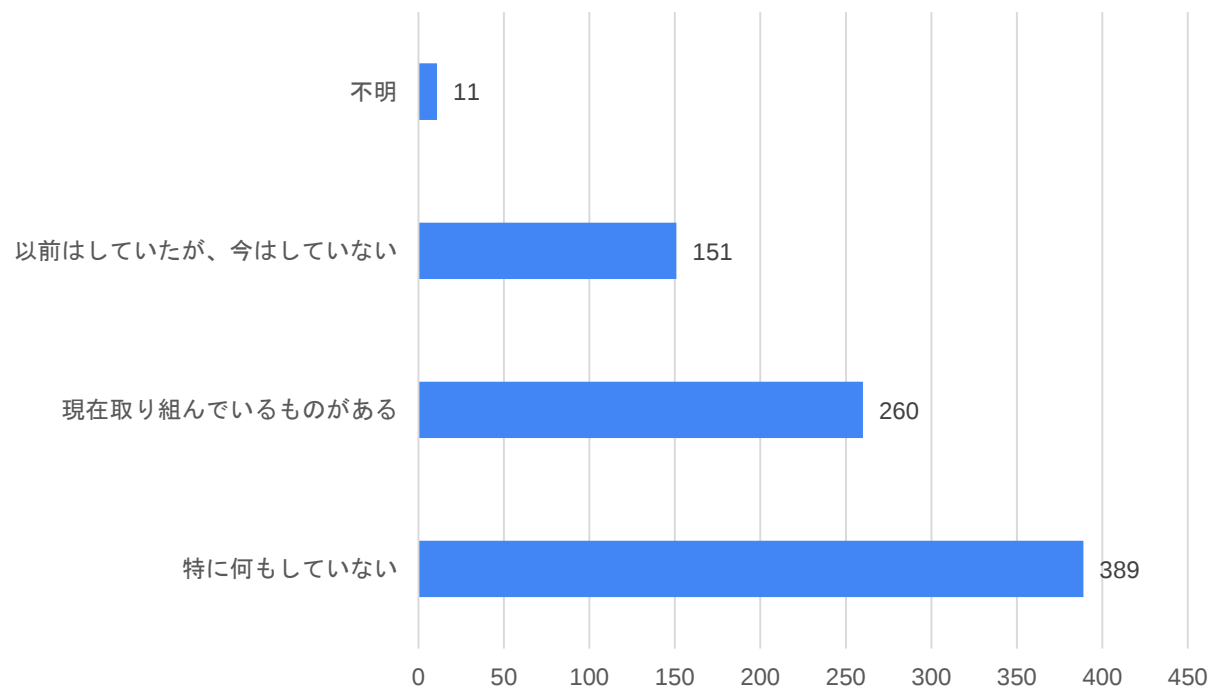


情報、支援者や仲間、送迎サービスを必要とする人が多かった。

自由時間を使った活動 1

有効回答数 811

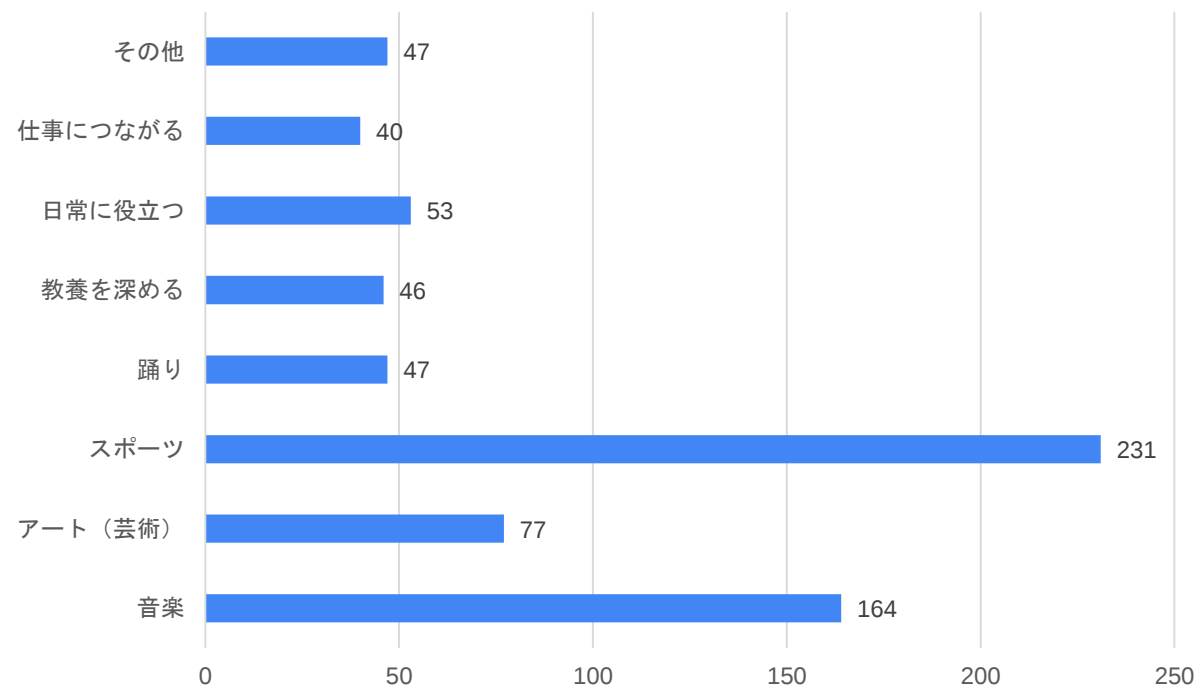
自由時間を使った活動の経験



自由時間を使った活動を現在している人が回答者の1/3、自由時間に何もしていない人が全体の半数近くに達した。

有効回答数 411

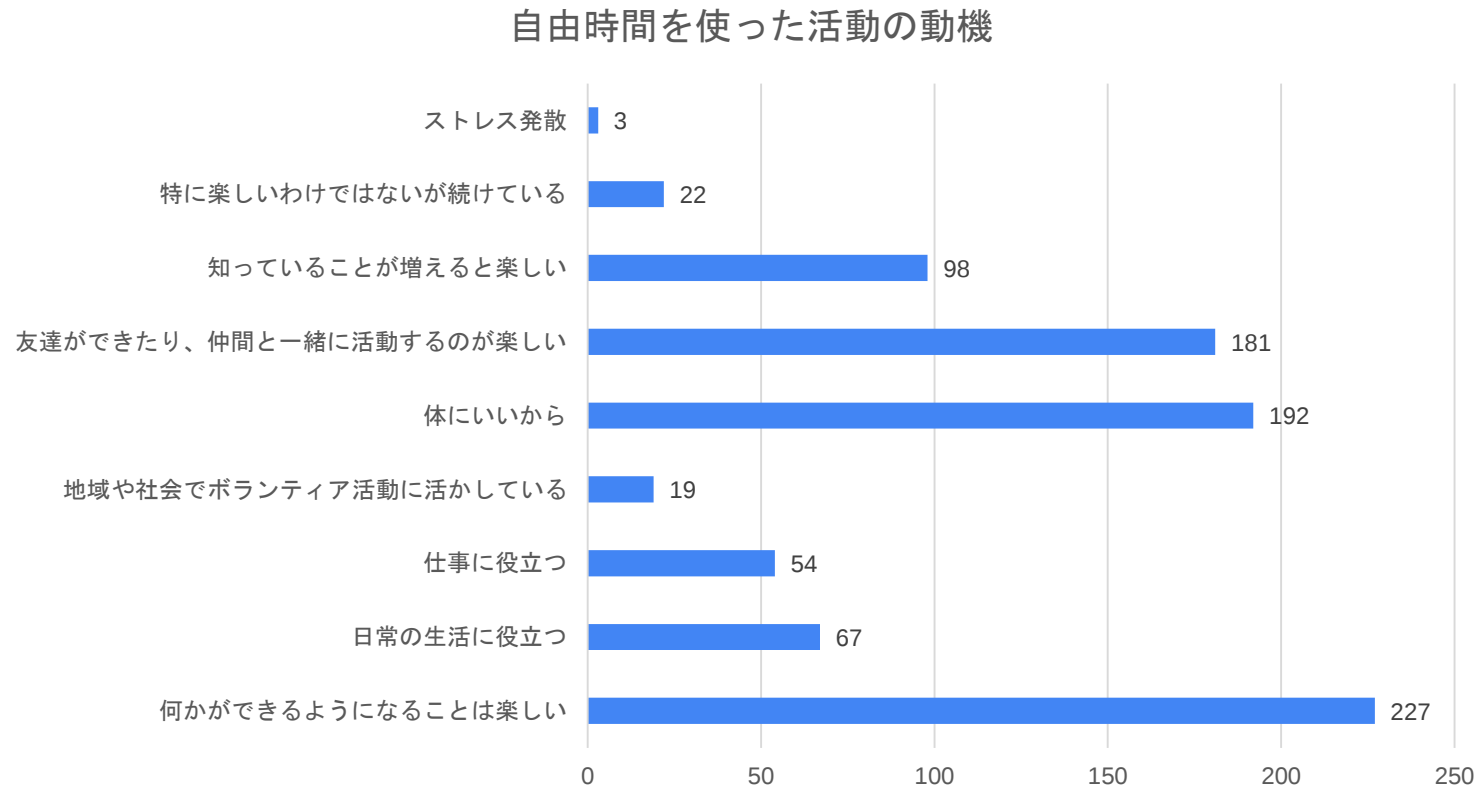
自由時間を使った活動の内容



自由時間ではスポーツや音楽をする回答者が多かった。

自由時間を使った活動 2

有効回答数 411

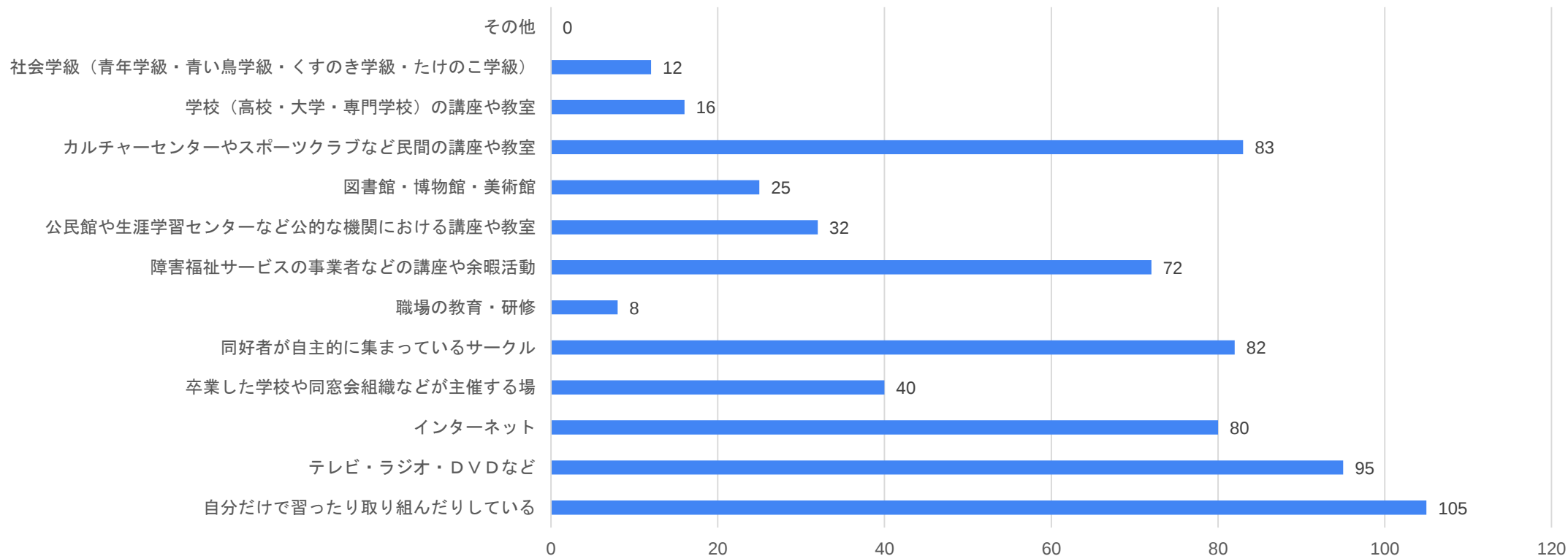


楽しみや健康を求めて自由時間を使った活動をする回答者が多かった。

自由時間を使った活動3

有効回答数 411

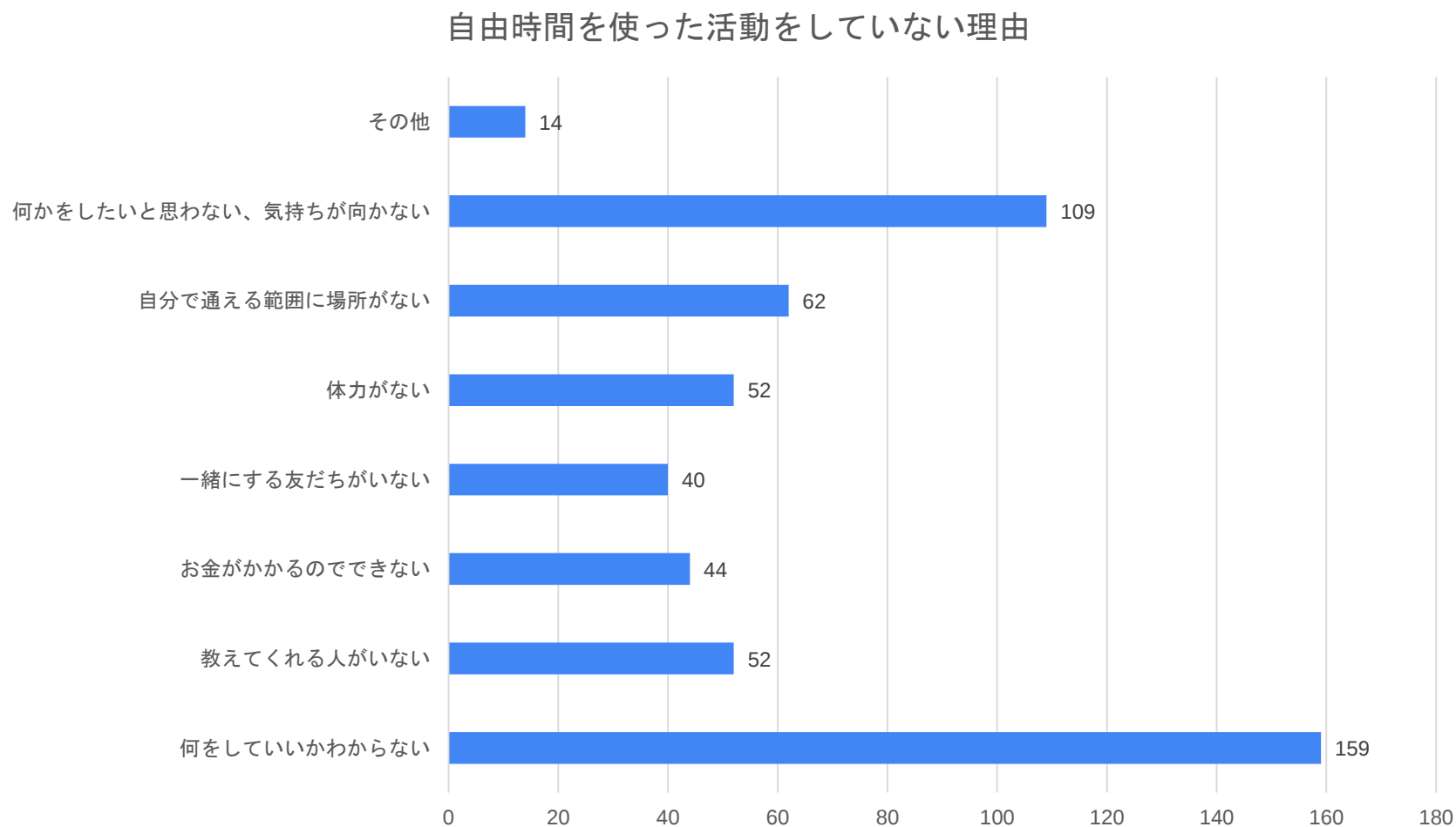
自由時間を使った活動の場所



自学自習をする回答者が多く、民間の講座や教室、自主的なサークルに参加する人もめだった。

自由時間を使った活動をしていない理由

有効回答数 389



何をしてもいいかわからない回答者が多く、また気持ちが向かない回答者もめだった。

[illegible]

株式会社ユーザーローカルの
AIテキストマイニング
ツールを使用。

クロス集計 1（療育手帳Aの回答者に着目して①）

	通える範囲に活動場所がある	通える範囲に活動場所がない
非重度知的障害者	494**	20**
重度知的障害者	255**	42**

* p<.05 **<.01 p=.000 クラメールV=.186

障害が重い人は、活動場所までの交通や支援者、指導者についての障壁が高くなる。

	指導者ニーズなし	指導者ニーズあり
非重度知的障害者	495**	19**
重度知的障害者	264**	33**

* p<.05 **<.01 p=.000 クラメールV=.146

	支援者ニーズなし	支援者ニーズあり
非重度知的障害者	374**	140**
重度知的障害者	116**	181**

* p<.05 **<.01 p=.000 クラメールV=.332

クロス集計 2（療育手帳Aの回答者に着目して②）

	どのような活動があるか知っている	どのような活動があるか知らない
非重度知的障害者	373**	141**
重度知的障害者	175**	122**

* p<.05 **<.01 p=.000 クラメールV=.140

	活動情報サービスのニーズなし	活動情報サービスのニーズあり
非重度知的障害者	279*	235*
重度知的障害者	136*	161*

* p<.05 **<.01 p=.020 クラメールV=.082

	趣味なし	趣味あり
非重度知的障害者	396**	118**
重度知的障害者	254**	43**

* p<.05 **<.01 p=.004 クラメールV=.102

障害が重い人は、活動情報が少なく、情報を積極的に得ようとしているが、実際の活動に至らない傾向がみられる。

クロス集計3（療育手帳B2の回答者に着目して）

	自由時間にテレビ やゲームをしない	自由時間にはテ レビやゲームをする
非軽度知的障害者	158*	417*
軽度知的障害者	46*	190*

* p<.05 **<.01 p=.017 クラメールV=.084

	やりたいことある	やりたいことない
非軽度知的障害者	511*	64*
軽度知的障害者	194*	42*

* p<.05 **<.01 p=.011 クラメールV=.090

障害が軽い人は、自由時間にテレビやゲームをして過ごす人が多く、
やりたい活動がないことにつまずいている場合が多い。

クロス集計4（企業就労者に着目して）

	活動情報なし	活動情報あり
非企業就労	289*	318*
企業就労	79*	125*

* p<.05 **<.01

p=.027

クラメールV=.077

	活動機会なし	活動機会あり
非企業就労	363**	244**
企業就労	98**	106**

* p<.05 **<.01

p=.011

クラメールV=.090

企業就労している人は、活動情報にも活動機会にも恵まれている傾向がある。

クロス集計5（現在活動している回答者に着目して）

	現在取り組んでいる活動がない	現在取り組んでいる活動がある
自由時間は楽しくない	219**	67**
自由時間は楽しい	332**	193**

* p<.05 **<.01 p=.000 クラメールV=.137

	現在取り組んでいる活動がない	現在取り組んでいる活動がある
非重度知的障害者	349	165
重度知的障害者	202	95

* p<.05 **<.01 p=.973 クラメールV=.001

現在、自由時間に取り組んでいる活動のある人が、自由時間をより楽しんでいる。
一方、障害の重さと、自由時間に取り組んでいる活動の有無とは関連しない。同様に、
就労形態や居住地も、自由時間に取り組んでいる活動の有無と関連しなかった。

クロス集計6（年齢層に着目して①）

	活動情報がない	活動情報がある
30歳以上	182*	186*
30歳未満	186*	257*

* p<.05 **<.01 p=.033 クラメールV=.075

	活動情報足りてる	活動情報がほしい
30歳以上	211**	157**
30歳未満	204**	239**

* p<.05 **<.01 p=.001 クラメールV=.112

30歳未満の若年層では、活動情報はあると答える傾向にある一方で、活動情報が足りていないと感じている人が多い。

クロス集計7（年齢層に着目して②）

	自由時間にテレビ・ゲームをしない	自由時間にはテレビ・ゲームをする
30歳以上	127**	241**
30歳未満	77**	366**

* p<.05 **<.01 p=.000 クラメールV=.197

	自分が何に向いているかわかっている	自分が何に向いているかわからない
30歳以上	264**	104**
30歳未満	270**	173**

* p<.05 **<.01 p=.001 クラメールV=.113

30歳未満の若年層は、自由時間にテレビやゲームをして過ごす人が多く、また、自分が何に向いているか分からないと感じている人が多い傾向を示した。

クロス集計（活動の意欲と実際の活動の関係）

		自由時間の活動への意欲が高い	
現在、自由時間に取り組んでいる活動がない	活動高ニーズ群	積極的活動群	現在、自由時間に取り組んでいる活動がある
	453名	246名	
	停滞群	消極的活動群	
	98名	14名	
		自由時間の活動への意欲が低い	

活動意欲の高低と、現在取り組んでいる活動の有無とをクロスさせ、4象限をつくったところ、意欲は高いが活動に取り組んでいない層の人数が、全体の半数に達した。

調査主体

兵庫県学校卒業後の障害者の学びを支援するための地域連携コンソーシアム

ワーキンググループ

吉川史浩（エコール神戸）

佐藤知子（神戸大学附属特別支援学校）

角野陽介（兵庫県教育委員会）

津田英二（神戸大学人間発達環境学研究科）

多田千景（神戸大学コーディネイター）

藤田雅子（神戸大学コーディネイター）

集計・分析

津田英二（神戸大学人間発達環境学研究科）

多田千景（神戸大学コーディネイター）

藤田雅子（神戸大学コーディネイター）

学校卒業後の活動(趣味や学び)について、保護者の方の思いや希望があれば、お書きください。

【場・場所】に関する記述

- 本人たちが気軽に集まれ、自由に過ごせる場所がほしい。交流の場で仲間ができ、そこで一日過ごすもよし、ボウリングやカラオケ、ハイキングや旅行、映画など自分たちがしたいこと、やりたいことを実現できる、サポートしてくれる方も皆で楽しめる場所があるといいなと思っています。
- 平日の夕方～夜間に児童デイの青年版のようなところが欲しい。本当の大学が関わってくれるような学びの場があればもっといいと思う。
- 卒業後、土曜日とかに障害の重さ関係なく参加できるサークルのようなものがあればいいなと思う。
- 卒業後体育や野外活動が無くなり作業ばかりの毎日となる為体重が増え続けてしまった。一人で出かける事が出来ない所以移動支援を利用し週一度バドミントンをヘルパーと楽しんでいます。幼い頃は色々と習い事がありましたが成人すると殆どなく、障害がある事で理解されず楽しみが減っています。学校では仲間と一緒に楽しむ事がありましたが卒業後は全く無い事に寂しさを感じています。特別支援学校を退職された教員の方は障害について熟知されているので障害者の活動に是非お力をお借りしたいと思っています。
- 卒業後も継続して学べる場が近くで増えるよう協力していきたい。また、増やしていければと思う
- 親が安心して本人だけで参加できる場所。同じ障害を持つ子の年代の違う保護者が気兼ねなく話が出来る場があれば良かったです。
- 趣味については家の中でできるものなので不便は感じていないが、友達と情報交換をしたり話したりする時に、会える場所がなかなかない。公的な場所で手帳を持ってる人が登録したら利用できるフリースペース(有料でも良い)があると助かる。フリースペースに職員さんを置いてトラブルがないように見守ってくれるとなお良いです。一般のお店などではトラブルなどが心配であり行かせてあげられないので。
- 作業所以外で、障がい者のサークル的な活動があれば参加させてやりたいと思います。
- 休日に開催されている教室、講座などがあれば本人のスキル向上のため活用したいと思います
- 学校卒業後も仲間と一緒に活動できる場や機会があるということが、本人にとって休日や放課後の楽しみになっていて、仕事を長く続けていくための励み、気分転換になっていると思っています。我が家はその点、恵まれていました。障害のある人が、何か1つでも好きなこと、熱中できることを見つけられて、それが長く続けられる環境が整うことを願っています。
- この様なアンケートを実施して下さり、有難うございます。重度の知的障害を持つ人は、卒業後、通う趣味や学びの場が少なく、親の付き添いの負担も大きいです。生涯通える趣味の場所が近くにあれば、また支援して下さる方がいれば、切に願います。言葉で表現は難しいですが、彼らはきっと色々な思いを胸に持っていると思います。楽しい人生を、送って欲しいです。宜しくお願いします。
- 健常者と障害のある人たちが共に活動できるサークルなどがあればいいなと思います
- 何かできる、運動もしくは活動に参加したりできる場があればいいなと思います
- 自宅から近くに学びの場があり選択肢が沢山ほしい。
- 集団や一般の方と一緒にでは難しいので、役に立つことが少人数で学べる学習教室や運動教室や料理教室など生活面、身体面に少しでも長く続けられる場があればと思います

- 健常者に気を遣わなくて良い 障害のあるひと専用の遊ぶ施設が欲しい。自分の子に向けた施設が子供だけとか年齢制限があって行けなかったりする。
- 健常児(者)のように習い事が障害を持った子(人)は選択肢が少ないと思います。レベルに合った習い事の種類が増えるとより余暇活動が楽しめると思う。
- 送迎、付き添いのヘルパーさんが必要
- 本人がいける範囲内でスポーツやボランティア活動など増やしてほしい。バス・電車・交通に不便なので、無料送迎サービスがあればいい。
- 学齢期には、学校、言葉の教室、放課後等デイサービス各々に、学びがあり、課題があり、達成感があり、新しいことにチャレンジし、できること、解ることが、どんどん増えていく日々でした。今思えば、本当にありがたかったと思います。現在は生活介護なので、同じ単純作業をずっとしているので、卒業してから、新たにできるようになったということは特にありません。自宅で本人に、計算や漢字のドリル等を勧めても、卒業しました〜と、言ってしません。まだ 21 歳、まだまだ仲間と一緒にたくさんのかことを学んで、身につけていって欲しいのですが、青年学級のような物は市内にありません。市内の人権文化センターで、小学生向けの英語や書道、識字学級がありますが、対象者ではないので、こういった教室の知的障害者向けがあればいいと思います。趣味に関しては、音楽が好きで、チェロの個人レッスンを受けて、毎日のように自宅でも練習しています。
- 前に習っていた障害者のためのスポーツクラブなどが近くにあればいい(1人で通える所に)
- 両親以外で気軽に相談できる場所や同年代が集まれる場所が欲しい
- 読み書き計算は小さい頃から自宅ですずっと続けています。が、地域や学校で教えていただける場がありません。皆と一緒に日常に役に立つ、買い物の仕方や読み書き計算、社会生活を学ぶ場が欲しいです。
- 小さい子が出来るサービスはたくさんあるが、大人になってほとんどないので、もっと増えてほしい。コロナ禍で活動できなく、停止状態でいつになったら再開できるのかかわからないのでストレスが溜まっている。
- 遠方だと通えない。平日の夕方以降は自宅でゆっくりしたいので 自分で通える範囲で土日にオープンカレッジがあると嬉しいです。
- 移動支援を利用していますが、ヘルパーさんの予約がなかなか取れない為、月に 1 回か 2 回しか利用できません。出来れば月に 4 回は利用できればと思う。

【時間】に関する記述

- 時間の使い方がわからない。何か与えても長続きしない。ドライブ要求あるが楽しめているかは疑問。こだわりの一つかもしれない。楽しめるものがあればいいのに。
- 子どものころと違い、成人になり、何に興味があるのかかわからない。体を動かすことも年とともになくなりつつある。年齢にあった興味、過ごし方がわからない。
- 平日、退所後暇で困っている。高等部までは、放課後等児童デイをかけもちして通って色々やれていたのに、余計に退屈そうで可哀想。
- フリーな時間を何とかして欲しい。家族は疲れているのに。
- 休日の日の過ごし方が難しい。家族と出掛けるのは嫌がるようになってきた。休みの間は家から全く出ないことも多い。運動不足が気になる。習い事をする日は送迎からずっと親が付き添うことになっている。本人はもう少し体を動かしたいようだがなかなか希望通りには叶えてやれない。
- 何をしたいかわからない

【人(指導者・支援者)】に関する記述

- 本人に向いている趣味や習い事で、職場以外の人との繋がりが持てればいいと思います。
- 地域にスポーツや文化活動をできる場の選択肢が少ない。支援者、大学生ボランティアの方等が関わって取り組んでもらえると嬉しいです。地域で皆で楽しめるイ

ベントが欲しい。

- 知的障害でも 身近で活動できる場所があれば良いなと思ってます。そこに サポートしてもらえる状況であると助かります
- 在学中に学校でしていた太鼓が楽しく続けたいとおもいましたが障害者を指導出来る教室が近くに無いので残念です。
- 学校の先生みたいな人がいてほしい
- 学びではなく、自分の遊びの範囲となってしまう。よき指導者のもと、趣味や学びになって自分のスキルアップになって欲しいです。指導者が少ないので、行政が力を入れて探してサークルのような形で提供して欲しい
- 自宅での学び:親のかかわりが不可欠なので、たまにしかできない。地域での学び:親の代わりに地域での学びをサポートしてくれる人がいればよいが、相当に難しい課題です。
- 理解をすることはできるのだが、落ち着きがなかったり感情がうまくコントロールできないので、一人で参加させることが難しい。先生以外の理解のあるサポーターさんのような方がいてくださると安心なのだけれど、難しいですね。仕事から帰ったら、疲れもあると思うが何となく時間を過ごしているようなので、この先このままでよいのか?とってしまいます。まだ若いのでこの先の人生の方が長い・・・
- 24~25 歳であっても新しく学び、知らなかったことを獲得できることがこの1年の親子での毎日の勉強でわかりました。ただ親子であるために、やりにくいこともあります。マンツーマンで学校の先生の OB の方々などが公共施設のお部屋で教えてくださったらいいな、と思っています。
- 音読や軽い体操、美術や音楽(小学校の授業のような)時間を過ごせる、教えてもらえるところがあれば嬉しい。なぜか、生まれつき体力は年よりも倍は衰え、知能は年の半分であるため、今ちょうど小学校の勉強が楽しくなるんだろうと考えるからである。
- (土)(日)は時間を持て余している方が多いのでは? 休みの時、買い物や映画は移動支援を利用できますが、例えば絵を描くとかモノづくりをするとか、など親の力ではできないのでそういう場所が欲しいです。+指導員も付いて。

【情報】に関する記述

- ☆ 卒業後に教養を身に付けるような活動が出来ておらず、本人も退屈な毎日を過ごしている。行動範囲がせまく、事業所の行き帰りのみ。とにかく情報がほしい。事業所などからパンフの配布があると助かる。
- ☆ 場を色々紹介してくれるサイトがあれば情報を知る機会が植えて助かります。学びの継続、身体を動かすことの重要性を日々感じています。例えば、平日の午前中作業・午後様々な活動(課外活動含む)のように“事業所+カレッジ”という形の選択肢があればいいなと思います。
- ☆ 障害別に情報が欲しいです。たとえば、ダウン症のお子さんには、アート関係に関わってみたり、企業の包装紙のデザイン、その他、こういう場で活躍されておられますよ、みたいな情報。また、そういった方の SNS(ブログ、インスタなど)の紹介があればと思います。たまに、そういう方の SNS を見つけたら、子どもと一緒に閲覧して共感しております。
- ☆ 参加出来る場をまとめて紹介してくれるサイトなどがあれば嬉しいです。
- ☆ コミュニティの場においてどういう活動の場があるかの情報提供
- ☆ 余暇活動を充実させてやりたいとは強く思っていますが、何をさせてやればいいのかかわからない。
- ☆ 企業に就労したので、障害者機関との関わり、繋がりがなくなって、お友達もなくなってしまってます。自分から積極的に動ける性格でもなく、交友関係が少なくなっています。もっと情報を知りたいと思います。(親が動かないといけないのですが・・・)

- ✧ みんな、障害の症状が違うので、障害ごとに情報が欲しい。
- ✧ たくさん情報があって、選択できるとよいな、と思います。
- ✧ どこで情報を得たらいいのかわからない
- ✧ 休日に、身近な場所で気軽に学べる習い事が有れば情報が欲しい。

【保護者】についての記述

- ◆ 何か体を動かすことができればよいと思いますが、基本保護者同伴なので参加しにくいです。
- ◆ 一人を通えない場所は、親が高齢になると送迎ができないので、これから心配です。
- ◆ 重度の知的障害がある人にとって、余暇の学びや活動は一人では参加しにくい。保護者の負担も多いです。サポートや支援者の方が多ければ助かるのですが、、、難しい課題です。
- ◆ 保護者も高齢化してゆく。サポートが家族頼みであれば、できないことは更に増えてゆく。
- ◆ 重度知的障がいのある子は親が情報を集めて積極的に動いても、活動の場は簡単には見つからない。自分達で団体を立ち上げ行動し、活動の場を広げているのが現状です。一般の習い事も受け入れ体制があまりなくて、探しているうちに心折れてしまう保護者も多いと思います。
- ◆ 本人の体が大きくなる、親は歳を取り始め車椅子に移動させるだけでも負担大、車椅子押すのも負担大。周りにも配慮しながら車椅子の移動を考えながらする。スーパーに連れて行っても通路が狭くて車椅子を操作するのは大変だ。かと言って人に委ねるのにすごく時間がかかった。痙攣発作があるから頼んだ相手がちゃんと個人の障害について理解してくれるのだろうか……と信頼関係が関係してくる。
- ◆ 親も老いてゆくので、付き添ってやるのが重荷になってくるので、信頼出来るヘルパーを確保したいです。ヘルパーの賃金を上げ、なり手を増やしてほしいです。また、ヘルパー育成に力をいれて下さい。

【仲間】についての記述

- ✓ 一緒に過ごせる仲間がいると嬉しい
- ✓ 同世代の人と交流する機会がなくなり、何か習い事を探しても、通いにくいところが多い。また、情報自体がなかなか入ってこない。公的な場所でサークル的なものももっとあれば、と常々思う。
- ✓ 仕事以外で同世代の方との交流が減っていくので寂しく感じます。只、障害を持つ仲間との繋がりがあるので有り難い。
- ✓ 卒業してから日中過ごすところが似たような人たちのところでは、それがいやというわけではなく、もっといろんな人たち(障がいあるなしに関わらず)との関わりが持てるような活動をしたいです。
- ✓ 卒業生との集まりがもっとほしい。移動手段が少ない。保護者がいないと移動できない

【その他】

- ✚ 趣味や学びも大切ですが、まずは本人が自立して生活していくための支援をしてほしい。両親がいなくなったあとのことをとても心配しています。
- ✚ 学びや新しいことへの取組、能力の習得とは安定した生活基盤、ある程度の経済力があつた、ゆとりができて初めて行えるものではないでしょうか。そうなるため、も

しくはそうなるまで親や周囲のみんなで見守っていきたいと思います

- ✚ 自宅と作業所だけの世界です。もっと、趣味娯楽を誰でも楽しめる様にサポート受けれる体制にしてもらいたいです。
- ✚ 家族と暮らしていた時は色んなことをしていたが、ホームで暮らすようになってから何もできない。楽しいけどつまらない
- ✚ 施設に入ったらの差はあれ、食べて寝るだけです。今はコロナだから余計にそう。
- ✚ 低廉もしくは無料で受けられる講座などがあればいいと思います。
- ✚ 信頼出来るヘルパーがもっともっと沢山必要です。ヘルパーが居ないと本人は1人では行動出来ません。まず、そこです。
- ✚ 一般枠で普通に学校を卒業後の障害のがボーダーラインの人は、学習して覚えることに、つまずきを感じることもある。学びや活動をするにも、障がい特性を理解してもらえる環境にないと難しいと思う。そのためにも、社会全体が障害を理解する必要があると思う。
- ✚ 身近な地域の中で、障害のある人もない人も一緒に参加できるイベントがあれば参加してみたい。地域のお祭りが無くなってしまったので残念に思っている。近所の人に本人のことを知ってもらったので。
- ✚ 社会奉仕をした事があるのですが、地域で社会奉仕できる場所があればいいなとおもいます。
- ✚ とにかく本人がいきいきと過ごしてくれるのが望みです